

地域について自ら調べ、 歩いて学ぶ授業の設計と レポート出題

文学部日本史研究学域 日本史学専攻
京都学クロスメジャー
田中 聡

教養科目「京都学」設置に至る経緯

- 2012年 文学部に学域制設置。地域研究学域のなかに地理学・地域観光学と並び、京都学専攻※が新設され、報告者が着任。

※先行して置かれていた学科横断的な「京都学プログラム」から専攻へ改組。

- 本専攻の特色は、①地理学・歴史学・文学の教員からなる専門分野を横断した内容の講義科目、②インターンシップを含む実習系の科目を揃え、身近にある京都地域をフィールドとした実践的な学習が出来る学生を育てることを目標とする点。

→①京都学概論、京都学入門講義、京都地誌、(教養) 京都学…

②京都学フィールドワーク、人文特別研修、茶道・華道…

⇒聴き取りと文献研究・地理情報を組み合わせた卒論の執筆へ

教養科目「京都学」設置に至る経緯

- 基本的に専攻生が必修・選択必修で受講する科目が多く、京都に関心を持つ他学部生が受講出来る科目が少なかった。
- 科目設計上、**地理学・歴史学・文学の3分野**（うち少なくとも2分野）を15回で学べるように構成を考えた。結果として複数教員によるリレー講義の形式となり、地理学の河角直美先生、歴史学の田中、文学の中本大先生を柱に、各分野のプロパーである授業担当講師の先生方を組み合わせてそれぞれ授業を組み立てている。

→ニーズに応え、教養科目「京都学」が衣笠キャンパスの各学部～BKC、OICで開講されることとなり、現在4クラス開講中。
（例年、受講者数の4クラス平均は160～180名程度）

ex 今年度春学期、衣笠開講の京都学GAの到達目標 ※GAは歴史学+地理学。

「京都」を**多面的重層的**にとらえ、他者に語ることができる。

自ら「京都」を**フィールドワーク**し、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語ることができる。

2022年度 京都学GAの授業内容・テーマ

授業回数/ 担当教員（複数担当の 場合）	テーマ
	キーワード・文献・補足事項等
1 田中聡	【メディア授業（オンデマンド）】講義の進め方／平安京以前の京都（田中1）
	平城京・長岡京との比較、都のイメージ
2 田中聡	【メディア授業（オンデマンド）】都市平安京（田中2）
	平安京遷都、都市の誕生、都の景観変化
3 田中聡	【対面（オンラインと併用）】祇園祭と町衆（田中3）
	紙芝居、映画、TVドラマ、観光雑誌
4 田中聡	【対面（オンラインと併用）】梵鐘が語る地域史（田中4）
	梵鐘の形態分類、銘文、戦時供出
5 田中聡	【対面（オンラインと併用）】近代教育の展開（田中5）
	番組小学校、盲学校、大学
6 田中聡	【対面（オンラインと併用）】戦争の記憶（田中6）
	陸軍第16師団、出征と銃後、隠された空襲
7 田中聡	【対面（オンラインと併用）】占領下の京都（田中7）
	占領軍による京都改造と「民主化」・交通事故、孤児、開拓
8 田中聡	【対面（オンラインと併用）】高度経済成長期の京都（田中8）
	再開発と観光地化、京都府下の過疎化

2022年度 京都学GAの授業内容・テーマ

- 講義前半の8回では、京都の古代～現代に至る歴史をごく大掴みに説明し、身近にある史跡や路面、地域に残された各種資料から、京都の歴史の一端を知る方法について学ぶ。

ex 現在の一条通・九条通の位置、平安京西北角はどの辺か

映画・紙芝居・マンガにみる町衆（まちしゅう）像

お寺の鐘の銘文から地域の記憶を読み取る

番組小学校の現在、残された明治期の教科書

陸軍第16師団の痕跡を歩く、京都市内の幻の空襲

占領期の交通事故、大学周辺の開拓地

都市部観光地化と古都税、生活綴方にみる丹後地域の過疎

2022年度 京都学GAの授業内容・テーマ

9 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】京都地域の概観（松岡1）
	京都周辺の地理的特徴、人口・産業の集積と自然条件
10 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】京都周辺の地形について（松岡2）
	地形、京都盆地の形成、堆積平野
11 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】平安京の開発と都市空間の変遷—平安時代から近代へ（松岡3）
	平安京の開発、発展と衰退、近世以前の都市改造
12 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】近代京都の都市的发展（松岡4）
	明治時代における都市縮小と産業振興
13 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】郊外住宅地開発と住宅の西洋化（松岡5）
	都市の拡大、新中間層の成長、住宅の洋風化
14 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】京都の近代化遺産について（松岡6）
	「近代化遺産」とは、近代化遺産を通して京都の街をみる
15 松岡恵悟	【対面（オンラインと併用）】現代の京都の都市空間について（松岡7）
	京都の都市空間構造、景観保護、今日的な諸問題について

2022年度 京都学GAの授業内容・テーマ

- 講義後半の7回では、歴史地理学の松岡先生が、京都の立地（自然環境・地形）、時間の経過とともに都市化が展開する推移を整理し、地理情報から近代的な町並みの形成過程、現在の「近代化遺産」制定や伝統的な景観保護等、現在の都市的課題の一端を知る方法を説明。
 - ⇒ 受講生は、前半で歴史学から、後半で地理学からの地域研究方法を学ぶ。全く異なった方法で同じ時代の京都の諸問題に迫る視角や、それぞれ紹介した実践例（フィールドワークを行って得られた知見）から、**実際に現地を踏査することの有効性**を実感。
 - 毎回、講義内容に関する400～600字のミニレポートを課し、理解度を確認。代表的な回答例を次回冒頭に紹介した。

③④京都教育大学内の遺構

- 正門を入り、校舎に向かう道の向かって左側に、輜重隊の衛兵舎と**営門の一部**が移築されている。以前は京都市消防学校の敷地内にあった。
- また陸軍第19旅団司令部の建物は、1957年（昭和32年）、京都学芸大学がこの地に移転してから学長室や職員会館として使用されていた。現在は創建当時の姿に復元し、教育関係の資料を整理して学術研究や学校教育、社会教育に役立てるミュージアムとなっている。

第6回 「戦争の記憶」で紹介したフィールドワーク事例



⑧聖母女学院の本部棟

- 陸軍第16師団司令部庁舎として1909年に建設された。私立聖母女学院は1923年に大阪で創立され、1949年にこの地へ小・中学校、1952年に高等学校を開校した。この建物は学園本部棟とされ、希望者にも無料で公開して、陸軍との関係を紹介している。
- 床には士官たちのサーベルの先でついた跡が多数残る。大理石を用いた立派な暖炉も各部屋にあり、明治期の公共建築としても文化財的価値が高い建物。

第6回 「戦争の記憶」で紹介したフィールドワーク事例



2022年度シラバスでの期末課題説明部分

- 【期末レポートについて】 レポート試験60%・平常点評価40%
 - ・ **授業の内容をふまえて**自身の研究テーマを設定し、テーマにかかわる「場所」について、**文献や映像資料などで調べ、可能であれば実際に訪問**する。そこで得られた知見を記し、さらにテーマおよび場所に関する参考文献も活用し、自身の研究レポートを執筆する（本文2000字以上）。
 - ・ レポートにはその場所の風景（景観）写真を3点以上添付し、それぞれについても短い概説を加える。（自身が撮影した写真の場合は撮影日時も記載。文献やwebサイトに掲載されたものの場合は、必ず出典を明記する）
なお、観光地で撮影した自分のポートレートなどは不要。
 - ・ **どの位置から撮影したのか確認し、その箇所を明示した地図を添付すること。**パンフレットや寺社のホームページに掲載されたガイドマップの転載は不可とする。
 - ・ 書式などについては、授業のなかで指示する。
 - ・ **インターネットや文献からの無断引用、あるいは他人のレポートと同内容の場合は「F」評価とする**ので十分注意すること。
また参考文献を本文末尾に挙げ、必ず出典を記載すること。

学生のレポートテーマ例

講義前半との関連あり

葛野大堰が秦氏と平安京に与えた影響の考察、「カモ川」の名称、長岡京と乙訓寺、平安京右京の衰退、大將軍の歴史、一条戻橋の伝説とその受容の価値、一条妖怪ストリートの再興策、両側町の明確な成立時期、南山城の山城国一揆、祇園祭の歴史的变化－京都に受け継がれる町民の精神－、上七軒の「西陣の奥座敷」としての歴史、西陣の区画、京都市北西部の御土居、高陽院の歴史、京都大原地区の若狭街道、巨椋池の変化、丸太町橋の女紅場址、部落との接し方、西陣地区の空襲、京都の接收建造物…

講義後半との関連あり

京都先斗町の電柱、京都市外における鉄道の変遷、京都の新中間層による郊外住宅地、祇園町南側地区の景観の変化、京都駅の歴史の変遷、中立売通りの市電の痕跡、京都駅前の「電気鉄道事業発祥地」の記念碑、伏見の路面電車、産寧坂地区の人気の理由、龍安寺と龍安寺参道商店街を中心とした周辺地域の変遷、立命館大学衣笠キャンパスの戦前・戦中史、京都市北区のラジオ塔、京都市北区の木島櫻谷、橋本遊郭と橋本地区…

⇒いずれも現地を訪ねて地図を見ながら周辺を歩き、碑文等の写真を撮り、地域住民に聞いた話を記録。
また先行研究を読み、原史料に当たって問題点を指摘。学部を問わず充実した内容となっている。

いかに受講生の実践に繋ぐか

- 科目設置当時から、期末試験ではなく、受講生自身が地域に出て、関心を持つ場所に赴き、踏査した結果をレポートに纏めて提出する形で評価することとした。
 - ⇒ 型どおりの京都礼賛にはならない実態に触れる。**自分の目で現地を見て歴史や現状を知り、理解することの重要性を実感する機会に。**興味深いレポートが見られるようになった。
 - ← 受講者数の多さ、複数学部・学科・専攻による方法論の違いにより、資料の見方や地図の読み方、写真の撮り方等にバラツキ。講義内容をほぼふまえず、紋切り型の京都像を繰り返すようなレポート※もなおみられる。ほぼ同文や論文剽窃、無関係な記述も散見。
 - ※伏見稻荷など有名観光地へ行き、ウェブサイト挙げられた解説文をただ丸写しし、マップを貼付け、構内を見物した感想を加え、友人とスナップ写真を撮って終える例など。簡素なエッセイに止まる。
 - コロナ禍による外出制限で、2020年度には地域を歩くことも困難となり、写真を含めてインターネット上の情報に依拠する例が増加。～今年度は踏査をふまえた例が増える。
 - 日本に入国できない留学生が講義を聴き、限られた情報から期末レポートを作成せざるを得ない例もある。そもそも京都を知らないため、未入国で同じ課題は困難。
 - ⇒ シラバスや初回授業の際に、期末レポートの説明をより具体的に丁寧に行い、期末レポートに関する質問にmanaba+Rの質問スレッド上で回答し、疑問点の共有を行う。
- これにより、剽窃や感想文的なレポートは減ってきた印象。～さらに実践的にするには？